

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501969		
法人名	有限会社 札幌福祉サービス		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条6丁目1番25号		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0170501969-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位のサービスを提供できるように、常に利用者の要望及びご家族様等の要望を実践し、またより良い生活ができるように、スタッフ一人一人が意識して利用者と接し、日々のモニタリングにて介護計画への反映、サービスの改善・向上に繋がるように努めている。
町内のサロン、茶会等に参加し地域の住民との交流を図り、ホームの理解を深めていただけるように働きかけを行っているが、本年も新型コロナウイルス感染症の影響により、交流は中止している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いこいの家」は、新札幌駅からバスで10分ほどの静かな住宅地に立地している民家改築型のグループホームである。居間の大きな窓からは庭や隣接している上野幌園芸センターの木々を見ながら自然を感じることができる。室内は民家の造りを活かして家庭的な家具類を配置し、全職員で日常生活そのものを機能訓練につなげる思いで日々のケアに熱心に取り組んでいる。感染症の流行により地域交流が難しい中、保育園の子供たちから手紙や絵を届けてもらったり、お返しとしてフェルト生地でボタンはめ玩具を利用者と一緒につくりするなど工夫しながら交流を継続している。運営推進会議は、議事録と共に、年間計画のテーマに沿って新型コロナウイルス感染症対策や食中毒などの資料を家族に送付して情報を提供している。管理者は毎月の会議や身体拘束適正化委員会の機会を活かして全職員参加の下で勉強会を実施しており、職員の育成にも力を入れている。食事面では利用者と一緒でフルーツサンドやたこ焼きを作ったり、鍋料理、寿司の出前を取るなど食事が楽しめるように工夫している。外出支援では周辺の散歩や買い物、花壇づくりや庭先での花火、平岡公園で花見を楽しむなど、感染症の流行により外出が難しい環境でも積極的に外気に触れて気分転換できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より職員が理念を念頭に置くよう努め、常に利用者本位のケアが出来るよう心掛けている。	基本理念に地域密着型サービスを意識した「地域交流と貢献」という項目が含まれている。事業所内の要所に掲示し、職員採用時には書面で渡している。会議で確認することもあり、職員もしっかり理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のサロン・茶会に参加し、地域との交流に心掛けている。また地域の清掃行事等に参加をしている。今年も利用者の交流はコロナの影響で中止としていた。	感染症の流行により地域行事に参加する機会はないが、保育園の子供たちが手紙や絵を描いて届けてくれている。お返しに手作り玩具を利用者と一緒には制作するなど、子供たちと可能な限りの交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、町内会長や民生委員、ボランティアの方々に参加していただいている。今年も書面会議としていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年の日程でテーマを決め、2か月ごと開催している。会議では、利用者の様子、避難訓練、食中毒、災害対策、利用者様の家族アンケート、利用者ご家族へのお便り等について報告、意見交換を行っている。今年も書面会議としている。	今年度は年間計画に沿って書面会議を開催し、議事録と共に食中毒対策や感染予防などの資料を家族に送付している。民生委員の参加が困難になったため、地域包括支援センターに相談しながら構成メンバーとなる地域役員の依頼を進める予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区の管理者会議に参加している。また、運営推進会議では、地域包括支援センター、介護予防センターの職員に参加頂き、情報交換、連携をおこなっている。今年は中止が多い。	感染症の流行により市役所を訪問する機会は少なくなっているが、メールで感染症対策や助成金などの情報提供を受けている。区役所の保護課とは、入居相談や生活保護受給者の受診などで情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、身体拘束適正化委員会を定時開催し、職員間で共有できるよう努めている。今現在は拘束行為は行っておらず三原則を満たしていない場合は拘束はしない。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、年4回勉強会を実施している。玄関の鍵は安全面に配慮して施錠しているが、利用者が出かけようとした時は職員も一緒に外出して自由な出入りを支援している。身体拘束適正化委員会の議事録が分かりにくいので、見やすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員が定例の会議等において、何が虐待行為になるのかを意識し、利用者の身体の色等、身体上の変化にも常に注意を払っており、虐待防止及び不適切ケアの防止に努めている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする方に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を基に契約時に丁寧に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化により、契約解除に至る場合には、ご家族の他、本人を交えて対応方針を十分に相談している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様本人の希望やご家族へのアンケート等を取り、意見、要望を頂き、また、面会時には気楽に要望等を頂けるような雰囲気作りにも努め、出された意向等には、ミーティング等で話し合い、反映している	家族の面会時や電話で利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き取っている。年4回「いこい便り」を作成し、個別の様子と写真入りで事業所の活動を伝えている。今後、家族意見や職員の気付きなどを分かりやすく個別に記録することも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、職員会議の他、日常会話の中等、様々な機会に職員の意見や提案を聞くよう努め、働く意識の向上や質の向上に繋げている。	管理者は会議や業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、ケアや業務改善、行事などに活かしている。職員は毎月の行事を交代で担当しながら、装飾など得意分野を活かして運営に携わっている。管理者は職員と個別に話を随時設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法、安全法を守った労働条件や健康診断を行っている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。また勤務時間内容も現状に合わせ職員に負担の内容に見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上に向け、外部研修への派遣、会議等で、その報告をし、働きながら学ぶ職場研修等に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区内グループホームの合同研修会等や地域ケア連絡会等に参加し、学んだ事や感じた事等を職員会議の中で報告している。また、認知症についての相談会にも参加し、他施設の事例等を話し合うことでケアの質の向上に繋げている。本年も中止となっている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で必ずご本人にお会いし、生活状況や要望、不安を把握するよう努め、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を大切にし、家族の要望や不安等傾聴する機会を作り、サービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや状況等を確認し、医療機関や担当のケアマネージャーとも連携し、より良い生活づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物干し、テーブル拭き、食品の盛り付け、掃除等のお手伝いして頂ける事は参加頂き、感謝の意を伝え、充実感を感じて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の同行、付近の散歩のご協力等のご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上、ご家族やご友人の面会時はゆっくり落ち着いて、楽しく過ごして頂けるよう配慮している。ご要望のある時には、要望に添えるよう努めている。	知人から手紙が届く利用者もあり、職員は返事の投函を支援している。職員と一緒に近隣のコンビニエンスストアに買い物に出かけたり、家族と葬儀に出席した利用者もいる。外出レクで馴染みの公園などへの花見や紅葉見物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその日の状態や利用者同士の関係に配慮し、必要に応じて席順を変えたり、会話を促したりすることで、気兼ねなく交流していただけるよう努めている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等の依頼等があれば、ご希望に添えるようにフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で、言葉や行動、表情で思いや意向を理解するよう努めると共に、ご家族からも情報を得るように努めている。	現在の利用者は、殆んど会話から思いや意向を把握することができる。アセスメントシートに興味や嗜好欄を設けて3か月ごとに更新しているが、利用者により情報にばらつきがみられる。	アセスメントシートの趣味・嗜好欄に現在の情報を具体的に記入し、介護計画の更新や日々のケアに活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係者から聴き取るようにし、生活歴や病歴など、情報収集に努め介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動や動作から生活リズムを把握し、個々の力を伸ばして行けるよう努めている。日々変化する状態も見逃さないよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化している利用者の体調や状態を敏感に察知し、随時、その時の状況に応じた対応、計画作成を行っている。医療機関とも連携し、素早く対応、計画に入れることができるように努めている。	全職員の評価を基に担当職員がアセスメントシートとケアプラン導入シートを作成し、計画作成担当者が3か月ごとに介護計画を作成している。介護記録にサービス内容項目番号を記載し、変化を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄、入浴等の日々の様子や発言内容を記録し、現状に即した計画となるよう随時見直している。また、記録は全員が閲覧し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の精神状況や行動に合わせた柔軟な対応を行い、食事についても要望に応じ個別に食材を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在も新型コロナウイルスの影響で交流を中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望を取り入れ、希望のかかりつけ医がある方には、受診して頂いている。また、必要な情報の提供等を行っている。	全員、2週間ごとに協力医療機関の往診を受けている。今後は週1回の歯科往診も予定している。専門医の通院は家族対応を基本に、状況に応じて事業所でも支援している。受診記録は個別に記入している。	

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に利用者の身体状況を伝え、相談している。また、利用者への注意事項を記録し、全職員が共有するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切な治療を受け、早期退院に結び付くよう、ご家族や医療機関との情報交換に努めている。その際の利用者の情報を職員が共有するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時に対応できるようにご家族を交えて医師と話し合う体制が出来ている。	利用開始時に重度化と看取りの指針に沿って常時医療行為が必要になった時は事業所として対応が難しいことを説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い適切な支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議等でも話し合い、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在も新型コロナウイルスの影響で職員や入居者だけの訓練としている。	感染症流行前は消防署と地域住民の協力を得て避難訓練を実施し、今年度は夜間の火災を想定した自主訓練を行っている。職員の救命講習の受講と地震時の対応についての話し合いは十分とはいえない。	感染症の収束状況を見ながら、計画的に職員の救命講習の受講を進めるよう期待したい。また、地震時の個別対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣等や排泄等についてもプライバシーを確保し、日々の会話においても人格を尊重するように接している。	呼びかけは「さん」づけとし、内部研修等で言葉遣いや対応について話し合っている。申し送りはインシヤルを使ったり、名前を伏せて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさ等からも、その方の思いを汲み取れるよう努めている。本人の希望により日常の過ごし方を決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちや体調を優先にした個別性のある支援となるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人へ衣類の選択、希望に添えるよう配慮し、季節や気温に応じた衣替えをしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べる力等を把握し、美味しく召し上がっていただくため、個々に応じた料理の形状で提供している。また、利用者様の要望にも添える食材を提供している。	食材業者から献立と食材が提供されている。利用者が盛り付けや配膳を手伝っている。レク行事の中でおやつ作り、たこ焼き作り、鍋料理、出前寿司の提供など、変化をつけて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量をチェック表にて確認している。また摂取量の低下等については随時主治医と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力を考慮し、自立の方へは声掛けを行い実施して頂き、必要な方には介助し口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットは必要な方のみ使用し、トイレ誘導等個々の排泄パターンに合わせてケアしている。	全員の排泄状況を記録している。自力でトイレに行ける利用者が多いが、状況に応じて介助や排泄状況の確認を行っている。声かけの際は羞恥心に配慮している。状態に合わせて、布パンツ、リハビリパンツを使い分け、おむつを使用しないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況や体調に合わせ、下剤等の適宜分量の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の決まった時間に入浴対応しているが、ご本人の気分や体調に合わせ、午前入浴も実施し、意思を尊重して行っている。	日曜日以外の主に午後の時間帯で各利用者が週2回程度入浴している。希望に沿って午前入浴や同性介助に対応している。好みの湯加減にしたり、職員との会話を楽しみ、気持ち良く入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度に注意し、布団類の調節を行い安眠できるよう配慮している。また、ソファベッドや布団を用意し、利用者がいつでも昼寝や休憩をできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に処方薬の情報を添付し、いつでも確認できるようにしている。処方薬の変更や追加があればすべて記録し、職員全員が内容を把握できるよう体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器洗い、一部の掃除、洗濯、レクでは各種ゲーム、トランプ、カラオケ等、個々の気分や体調に応じて、生きがい、楽しみが持てるよう支援をしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の機会も一部、本人の体調等を見ながら実現できるようにしている。また定期的買い物レクとしてスーパーへ職員付き添いにて買い物の機会を提供をしている。車にて車窓ドライブも実施した。	感染症流行により外出が難しくなっているが、事業所周辺の散歩やスーパーマーケットへの買い物への同行を支援している。庭での花壇づくりや、花火レクリエーション、平岡公園での花見など、季節に応じた外でのレクリエーションを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、金銭を管理している。買い物外出等、お金を使える機会があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご家族、大切な人に電話したり、ご家族からの電話があれば、ご本人に代わって頂き、会話を楽しんで頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の随所に手すりや滑り止めを設置し、安全に生活して頂けるよう努めている。春夏秋冬は庭先に鉢植えを置き色とりどりの花々を利用者様が楽しめるようにしている。室内においても観葉植物を設置している。	居間は角面に窓があり、向かいの園芸センターの木々や事業所の庭を眺めることができる。壁には行事の写真、利用者の貼り絵や習字の作品、日めくりカレンダーなどを掲示している。クリスマスツリーを置き、戸棚には昔ながらの人形などを飾って家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、利用者同士が楽しく談笑できるよう見守り、必要があれば間に入り、ストレスなく過ぎて頂けるよう配慮している。居室で過ごしたい時は、本人らしい生活が出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、ぬいぐるみ、仏壇や遺影等を持ち込んで頂き、その方らしい部屋作りが出来るよう支援している。	居室には備え付けのベッドがあり、部屋によっては戸棚やクローゼットが設置されている。テレビや仏壇、タンスなどを自由に持ち込み、写真やカレンダーなどを飾って、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目配り、気配りを常に心がけ職員の見守りの中で、出来る限り自立して過ぎて頂けるよう気を配っている。また、センサーも導入し、事故等への安全性にも配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム いこいの家

作成日：令和 3年 12月 14日

市町村受理日：令和 3年 12月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、民生委員が変わってから、参加が難しく、また町内会役員の参加が今現在難しい状態である。	町内会のいずれかの役員に参加をして頂く。	地域包括支援センターに協力を頂き参加できる町内会の役員選定を進める。	3~6か月
2	6	身体拘束適正化委員会の議事録が、別の会議体の議事録と一体化している。	議事録を分離する。	固有の議事録を作成し整理する。	2か月
3	10	家族の意見や、職員の気づき等について情報が共有しづらい。	家族についての情報を整理する。	個人別の家族からの意見、要望また、職員の気づき、家族への対応等について情報を共有しやすいように資料を整理する。	3か月
4	23	アセスメントに用いるアセスメントシートの一部の欄(趣味・嗜好)について、表記の仕方により、担当者が評価する際、記入されない事が少なくなかった。	アセスメントシートに適切に記入する。	シートの欄の表記を変え、極力記入するよう工夫し、担当者が適切に記入できるようにする。	1か月
5	35	災害発生時の個人別の各生活行動時別の避難行動等が定められていない。	各個人の移動能力等に応じた避難手順の策定。	第三者でも確認できるよう、写真付きの移動能力、要介助情報等を一元化した資料の作成。	3か月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。